

山であそぼう！～in布引・市ヶ原～ 幼児教育学科の学生が子どもと一緒にエコ工作

平成25年10月6日(日)に「山であそぼう！～in布引・市ヶ原～」(主催:布引・市ヶ原を美しくする会・神戸市中央区役所)が開催され、神戸女子短期大学幼児教育学科9名の学生と宮内 真知子准教授(地域連携推進委員会委員長)、エコ工作助言担当の庄司 圭子教授が中央区との地域連携協力協定(注)の一環として参加しエコ工作を行いました。

このイベントは子どもたちに自然に親しみをもってもらうため、布引・市ヶ原周辺を散策しながら清掃活動を行い、身近にある自然に触れ合う機会を提供するために開催され、児童・生徒を含む市民170名の方が参加しました。

汗ばむような秋晴れのもと、参加者は、集合場所の生田川公園を出発し布引の滝の景観を楽しみながら市ヶ原を目指しました。市ヶ原で「布引みはらし登山会」の皆様

作っていただいた飯盒炊爨のご飯とカレーの昼食の後に、学生は希望した約30名の子どもたちと一緒にエコ工作の時間に「ブアブカシップ」を作り、水に浮かべて遊びました。

幼児教育を学ぶ学生にとって、子どもたちに工作の方法や遊び方を分かり易く説明する工夫や野外活動での留意点を考え準備をすることは、「ボランティアの実践」という授業の一部として、実践教育の場にもなりました。また、不要になった食品トレーや簡単に手に入る材料でエコ工作を行い、子どもたちに環境にやさしい遊びがあることを伝えることもできました。

(注)平成20年1月に学校法人行吉学園と神戸市中央区は、人材育成と地域活性化で連携する協定を結んでいる。本学園の研究資源や知的財産及び教職員・学生等の人的資源や知識をまちづくりに生かし貢献することとしている。



エコ工作「ブアブカシップ」の作り方を説明



できあがった作品で遊ぶ子どもをサポート



庄司圭子教授(後列左)宮内真知子准教授(後列左から4人目)とともにエコ工作終了後に記念撮影

神戸女子短期大学 パンクラブ「KOBEパンのまち散歩」参加

平成25年11月2日(土)・3日(日)に行われたPI神女祭りにおいてパンクラブが「KOBEパンのまち散歩」(主催:神戸市中央区役所「KOBEパンのまち散歩」実行委員会)の関連イベントとして「PI神女祭り(学園祭)パンの特別企画展 オリジナルパン=夢見るパン」をテーマに自分たちで考えたパンを製造し、大好評のうちに800個を完売しました。

パンクラブは顧問の細見 和子准教授の指導のもと平成11年11月から同好会として活動を開始し、平成15年4月からパンクラブとして、日々、おいしいパンを作ることを目標に、材料や製造方法の研究を続けています。

今回のイベントで販売したパンは全部で9種類です。おいしさはもちろん「夢見るパン」というテーマに、パンに部員たちの夢をこめて焼き上げました。販売したパンは全て当日焼きで、出来立てのおいしさを味わっていただくために朝早くから部員たちは奮闘しました。前回の学園祭で非常に好評だったパンに加え、新たに「健康を考えたパン」を完成させるため、学生たちは連日試行錯誤を重ねました。日頃の活動でも、栄養学や調理科学の視点をもって、自分が食べたいと思うおいしいパンを作り続けています。パンクラブは、栄養士などの資格や将来食の分野を目指す学生には生きた学びの場にもなっています。



パンを製造中の学生たち



販売ブースの様子



2日に販売されたパン(W抹茶、ベーコン、シナモンロール、焼きカレーパン、トマトバジル、さつまロール)

まちづくりへの子どもの参画を推進する「地域安全マップ活動」プログラム開発



学生の司会進行で事前学習を実施



まち探検で得た情報をもとに「地域安全マップ」を作成

平成25年10月18日(金)に神戸市立和田岬小学校において神戸女子大学家政学部 家政学科の梶木 典子准教授と大学院生、ゼミ生合計13名が、5年生35名対象の「地域安全マップづくり教室」(主催:神戸市兵庫区まちづくり課)に参加協力しました。司会進行と事前学習を行い、「まち探検」に同行し「安全マップづくり」をサポートしました。

梶木研究室では、平成17年から「楽しく、簡単に!」をコンセプトとして「地域安全マップ活動プログラム」を開発してきました。このプログラムは、児童館や小学校を対象にしており、参加する子どもたちにとっては「主体的に」「楽しく」、指導する大人にとっては「簡単に、負担なく」実践できるように作られています。梶木研究室ではこの「地域安全マップ活動」のプログラムの改良を重ね、日常的・継続的に実施可能なプログラムへと完成を目指し研究を続けています。

近年、子どもが巻き込まれる多様な犯罪や交通事故、大規模な地震や津波、集中豪雨による自然災害が多発し、安心・安全なまちづくりが急務とされるとともに、子どもたち自身が危険を回避する力を身につけることも重要になっています。その方法の一つが地域安全マップ活動であり、子どもたちはこの活動を通して、自分の生活している地域の特徴を知り、防災・減災の方法を学び、地域の人と顔見知りになることができます。

兵庫区にある和田岬小学校は、南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合、発災90分後には、校区全体に最大で4.2メートルの津波が到達すると想定されています。今回の安全マップ活動は、「地震・津波」に対する防災・減災学習に力点をおいて実施されました。

事前学習では、地震や津波のメカニズム、安全な避難の方法、避難場所などをクイズ形式で学習しました。その後、児童は保護者や地域の方、学生、区役所職員と一緒に8班に分かれ、「探検手帳」とデジタルカメラを持って、約90分間の「まち探検」を行いました。地震が起きた際に危険になると思われる建物、避難時に安全な道路、幅員が狭く救急車両が進んでいけない道路、倒壊しそうなブロック塀のある道路などを確認するとともに、地域の方へのインタビューも行いました。また「まち探検」の途中で、「地域の避難場所に行き、4.2メートル以上の高さの地点で班全員の写真を撮る」というミッションが出され、それをクリアすることで、児童全員が津波の到達しない高さの避難場所を確認できました。

午後からは午前中の「まち探検」の成果を取り入れた安全マップづくりの作業に取り掛かりました。班のメンバーで協力して完成した安全マップを提示して発表会を行い、クラス全員でその内容を共有しました。

参加した児童は、地域の避難場所・避難行動の方法をしっかりと確認し、防災・減災時の行動を自ら考え学ぶことができました。今後は、今回参加した5年生が全校児童の防災リーダーとなり、学校内だけでなく地域への防災意識を高めるジュニアリーダーとしての活躍が期待されます。

なお、梶木研究室では、「地域安全マップづくり活動」の事前と事後に参加者にアンケートを実施し学習効果を測定し、より効果のある「地域安全マップ活動プログラム」の開発に努めています。



まち探検:チェックポイントを探して歩く児童と学生



まち探検:住民の方にインタビューする児童



発表会:安全マップを提示して発表する児童



神戸女子大学

神戸市立須磨離宮公園

須磨離宮公園第26回「月見の宴」茶道部参加

平成25年9月23日(月・祝)神戸女子大学と「キャンパス・パーク連携」(注)を結んでいる神戸市立須磨離宮公園で、第26回「月見の宴」が開催され、茶道部の部員11名が参加し、庭園に設営された野点のコーナーで市民の皆様へ茶の湯を楽しんでいただきました。

9月の下旬とはいえ、当日は日中の気温が真夏並みに上がり夕方まで蒸し暑さが残っていました。夕暮れとともに秋らしい風が吹きはじめ、ご来場の皆様へ月見をしながら野点の風情を味わっていただきました。部員たちは、お月見にふさわしい名前のお菓子「名月」の説明を丁寧にして薄茶をお出しました。

茶道部員は、小学生の頃からお稽古を始めた学生から、大学生になり入部して初めて茶道を学んだ学生まで、茶の湯に親しんできた年月は様々ですが、「日本の伝統文化を学べる」「礼儀作法が身につく」「お茶席で心が癒される」といった理由でお点前の稽古を重ねています。

茶道部は、月見の宴のお茶席に加え、大学須磨キャンパスで開催される「お花見」、神戸市須磨区高倉台ふれあいのまちづくり協議会主催の「梅見の会」や「須磨大茶会」にも参加して地域の皆様へ茶の湯を楽しんでいただいています。

(注)神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に協定を結び、隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が離宮公園を教育・研究の場として使用できるようになっている。



茶道部の学生と顧問の十一玲子准教授(前列左から2人目)



陽も落ちて一段とお月見の風情が出てきたお茶席



お茶菓子の説明をする学生